

令和3年度 伊那北高等学校 評価表

教育目標	中・長期的目標
1 平和を希求し、真理と正義を探究する資質を養う。 2 躍如として学業にこしむ。 3 自主・自立の精神を養い、個性の伸長をはかる。 4 自由と責任を重んじ、努力を惜しまない態度を養う。	1 学習・部活動などに主体的に取り組み、将来を自ら切り拓く力をもった生徒の育成をめざす。 2 地域の実情、要望を正しく理解し、伊那北高校の将来を見据えて施設・設備を含めたビジョンを明らかにする。
	重点目標
	1 生徒・保護者・教職員が安心安全な教育環境を整え、一人一人が輝く学校にする。 2 チームとして「3つの方針」に沿った授業実践と教育課程の改善を進める。 3 100年の歴史を礎に、地域社会と協働する学校づくりを目指す。

領域	対象	重点目標	評価項目	評価の観点	具体的方法	主な評価材料	成果と課題	改善策・向上策	関係校務分掌
教育活動	進路・学習に関わる指導	2	進路意識の醸成	生徒自ら課題を見つけ積極的に取り組み、進路に対する意識を高めることができるような機会の設定、情報発信等を行うことができたか。	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間、生徒会活動、部活動等において、生徒が自ら課題を見つけ活動し、発信する取組みが行えるようにする。 外部と連携しながら、体験活動、講演会等の機会を設定し、積極的取組みを促す。 体験活動や、外部講師を招いての講演会実施が困難な場合、それに代わるオンラインを利用した機会を設定する。 進路に関わる資料や冊子等を、精選した上で配布し、進路意識の醸成を図れるよう活用する。 オンラインオープンキャンパスやオンライン大学説明会等の情報についても、精選した上で発信していく。 	生徒アンケート	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間、課題研究の時間が通常の時間割の中に入って2年、探究活動の指導が洗練されてきた。生徒アンケートの結果では9割を超える生徒がこれらの活動を好意的に受け止めていることが分かった。また、外部からの評価も高い。 生徒会活動については、感染症対策の面で中止となった行事も多かったが、厳しい状況の中でできる限りの活動、前例にとらわれない新しい活動を行うことができた。 昨年度に引き続き、コロナ禍において、体験活動の実施が困難だったが、感染が拡大した状況を想定した対応ができた。講演会は、オンラインで代替可能なものは実施したが、今後も対面での実施が困難なものについては、オンラインでの代替可能性、実施をするかしないかを柔軟に検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学外における生徒による発信の機会を増やすために、地域や他校との連携を深めていきたい。 講演会や研修会については、今後も感染拡大状況を想定し、対面・オンラインのどちらでも対応できるように準備を進める。 進路に関わる冊子や資料だけでなく、オンラインでのオープンキャンパスや大学説明会等の情報についても積極的に発信する。 生徒会行事だけでなく、日々の生徒会活動においても生徒が課題を見つけ、解決策を探究できるよう促していく。 	進路学習指導
		2	進路実現	進路指導計画を作成し、生徒・保護者の納得できる進路指導を教員間で連携しながら行うことができたか。	<ul style="list-style-type: none"> 伊那北高等学校としての進路指導方針について、教員間で共有し、生徒・保護者への丁寧な説明を行う。 生徒・保護者との連携を深め、生徒が自己の進路志望を明確にできるようにする。 第一志望の進路実現に向けての計画を作り、実現できるようにする。 定期考査や外部模試、昨年度の共通テスト等の結果を分析し、課題を共有し、授業や補習の機会を通じて生徒に還元する。 	成保生就護徒率者ア(アンケート)満足度(ト)	<ul style="list-style-type: none"> 様々な場面において、伊那北高等学校としての進路指導方針について、教員間で共有を図り、生徒・保護者へ説明することができた。 授業評価アンケートで、生徒からの自由記述について、建設的な意見が得られるよう工夫を図った。定期考査や、外部模試などの結果を分析から、上手くいったこと、上手くいかなかったことについて分析を行ってきた。これらを教科内、教科間で共有したことで、より良い授業を設計することが可能になった。さらに、そのより良い授業方法を教員間や生徒にICTで共有することによって、学習効率が向上した。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導方針の共有、個々の生徒に対し職員全体で指導に当たる体制、模試の意義について積極的に生徒へ周知を図ること、事後指導は継続していく。 共通テストに関する分析を教員間で共有し、次年度の授業や定期考査の改善を図る。また、新入試に対して継続的に情報収集を行い、対応できるようにしていく。 	進路指導
		2	授業改善	授業評価や学力分析を通して授業改善を行うことができたか。	<ul style="list-style-type: none"> 校内外に向けて授業を公開するなどして研修を行い、教材や授業の共有化を進める。 授業評価の結果得られた課題を明らかにして、改善に活かす。 ICTを活用して、①授業内容の改善を図る、②授業の効率化を目指す、③生徒による自学自習の便宜を図れるよう工夫をする。 総合的な探究の時間や課題研究の時間を教科間連携の強化の場として活かす。 	授業評価	<ul style="list-style-type: none"> ICTを利用して、校内外に授業内容や総探・課題研究の発表を公開することができた。他校や地域の人々から頂いた意見を学内で共有することで、教科内・教科間の連携が深まった。 授業評価アンケートの方法を電子媒体にして2年、生徒からの多くの自由記述を参考にして、教科内・教科間で「よりよい授業」の模索を行うことができた。 ICTの活用を積極的に行うことができた。新設されたICT委員会と協力して、全授業のICT化を推進することで、授業の効率化が進んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 自宅でオンライン授業を受けている生徒へのよりきめ細やかな対応を検討していきたい。 	学習指導
		2	家庭学習指導	授業を中心にすえた家庭学習が行える生活習慣を定着させることができたか。	<ul style="list-style-type: none"> 適切な課題量、適切な課題内容を全体で検討し、3年間を見据えた体系的な家庭学習を検討し、学内で共有する。 予習復習や課題への取組みについて点検し、個人面談などをおして適切な指導を行う。 「学習時間調査」を実施し、生徒の生活実態を把握し、家庭学習の充実を図る。 	学習時間調査	<ul style="list-style-type: none"> 適切な課題量、課題内容の検討を各学年で行うことができた。また、総合的な探究の時間の個人研究で、適切な課題量、課題内容の研究を行う生徒もいた。このように、学内に「適切な課題」の検討を行う機運が高まってきた。 学習時間調査の結果を参考にするなど、担任面談でここにに応じた家庭学習の指導を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度に引き続き、3年間を見据えた体系的な家庭学習、適切な課題量について学内全体で検討していきたい。 	学習指導
		2	読書指導	読書活動を活発にすることができたか。	<ul style="list-style-type: none"> LHRを利用した「読書の時間」を実施する。 読書の楽しさや意義を共有するため、本と情報を提供する。 授業・探究学習・課題研究・クラブ活動等との連携を深める。 	用図書貸出数(利)	<ul style="list-style-type: none"> 探究学習と図書館の連携を深く持つことができた。昨年度に引き続き、探究の時間中に図書館を訪れる生徒も数多くいた。また、理数科課題研究においては、先行研究論文の取り寄せを行うために図書館を利用するグループもあった。 	<ul style="list-style-type: none"> 文献調査における図書館の有用性を生徒に示していきたい。 	学習指導
	学校生活に関わる指導	1	生徒の健康管理	関係職員・スクールカウンセラー・家庭が連絡を密にとり、生徒それぞれの状況に応じた、適切な対応をとることができたか。	<ul style="list-style-type: none"> 小規模の会議から職員会まで、臨機応変に情報交換会を設定し、生徒の状況を共有する。 スクールカウンセラーや外部機関との連携を図る。 職員研修会を通じて、職員の知識・理解をさらに深める。 	職員研修会意見集(会)	<ul style="list-style-type: none"> 小規模会議から職員会まで臨機応変に情報交換する機会を設定し、生徒の状況を共有することに努めた。また、共有した情報からその後の支援につなげることができた。 スクールカウンセラーや外部機関との連携を積極的に図った。 職員研修会を年度当初に行い知識・理解を深めることができた。より多くの職員が参加しやすく、意義のある研修となるような工夫が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続してこまめな情報共有を図り、生徒支援につなげる。 スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、医療機関等外部の専門機関とも積極的に連携を図る。 次年度の職員研修は、より多くの職員が出席し求められる内容の研修となるよう設定する。 	特生推別徒進支相委援教員教育
		1	安全	学校生活における生徒の安全管理について徹底ができたか。	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策も含め、自他の健康について適切に管理し改善していくようにする。 学校行事や生徒会行事を運営する際、感染症への対策と安全面でのアセスメントを徹底し、事前チェックと生徒の指導及び当日の危機対応を行う。 交通安全および盗難予防指導の実施と充実を図る。 年3回のアンケートと面接週間にて実態の把握に努める。 	生徒アンケート	<ul style="list-style-type: none"> 健康診断の結果や社会の状況を見ながら、放送や保健だより等での確に伝えることができた。 中止や縮小した行事もあったが、実施した行事では、事前の準備やチェック体制等にも気を配り、当日の対策も含めて安全面からも健康面からも危機対応ができたと考えている。全員が感染症対策に関する正しい行動選択ができるよう引き続き呼びかけたい。 年度当初に事故が多く、また事故への対処などで指導を要する事例があった。事故の防止だけでなく事故にあった場合や、事故を起こした場合にどのような行動をとるべきかも指導していきたい。盗難については校内のロッカーや貴重品の管理については一定の成果があったが、部室での盗難が夏ごろから相次いでしまった。部室の管理・施錠など以外にも防犯策を検討する必要がある。 アンケートは一定の効果があるといえるが、来年度以降アセスを導入することもあり、実施について検討したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康状態の改善等は来年度と比較する必要があるので検討したい。 感染症予防に対する共通の認識と行動を引き続き呼びかけていきたい。 安全面での環境整備を徹底したい。 警察の指導も踏まえ、部室周りには防犯カメラの設置を検討している。 部室清掃を定期的に行い、衛生的かつ整然とした環境をつくっていく。 	生学徒校保健
		1	校舎内外の配美化と	「エコマネジメント長野」に基づきゴミの減量や校舎内外の美化などを推進することができたか。	<ul style="list-style-type: none"> ゴミの分別、減量に努める。 日常の清掃の徹底と点検を行う。 部室周辺及びトイレ清掃を徹底する。 教科ごとに実施している環境教育の体系化を努める。 電気・水道使用量の節減に努める。 	清掃(エ)状況(エ)の把握(メ)	<ul style="list-style-type: none"> 日常の清掃活動状況は概ね良好である。清掃用具の点検、モップの洗浄を実施した。 生徒会と協力して、感染症対策を行いつつ部室清掃を再開し5月に実施したが、その後は実施予定日に部活動禁止状態等で実施できなかった。今後も部室の清掃美化に努めたい。 ゴミを扱う作業は感染リスクが高いため、今年度も例年のような美化活動は行えなかったが、環境整備活動を通して美化への意識向上に努めたい。 水道使用量は概ね例年並みであった。電気使用量は、エアコンの稼働もあり前年比で10%増となった。引き続き節電に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度、校内美化活動(ワックス掛け等)を計画したが実施できなかったため、次年度は感染予防に配慮しつつ再開したい。また、校外美化活動についても、感染症対策をして再開を検討し、校外美化について普段の登下校時などの日常的な美化意識と地域共生意識の向上につなげていきたい。 	進清委掃メン(学)校長野担エコマネジ推
	地域との連携	3	中学校、地域への情報提供	中学生及び保護者、地域の方々から本校の教育活動について理解を深めてもらうことができたか。	<ul style="list-style-type: none"> 土曜授業公開、入学者選抜説明会(保護者向け)、中学生体験入学を実施する。 中学校訪問の実施、視察の受け入れ、中学生向け進路講話への対応を積極的に行う。 教育内容が深く伝わるよう、学校案内をより充実させる。 HPに学校のさまざまな情報が掲載されていることを周知するとともに、HPや一斉メール配信等により随時情報を発信する。 	ア来校ケ(ヘ)トの	<ul style="list-style-type: none"> 土曜授業は、本校保護者に3回、中学生とその保護者に1回公開し、貴重な機会となった。入学者選抜説明会は当初の予定を変更したが、同日に2回に分けて実施した。体験入学は、夏期休業中の平日に実施し、初めて行った体験授業は好評であった。また、短時間であったが部活動見学の時間をとった。しかし、時間の制約もあり、日程や教員数に余裕がなかった。 中学校訪問、学校視察受け入れ、中学生向けの進路講話については、予定通り実施する事ができた。 学校案内は、12ページの冊子型にし、コース新設の説明など内容を充実させた。HP上や一斉メール配信により情報を随時発信する事ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 土曜授業公開は来年度も滞りなく実施出来るように準備を進める。 入学者選抜説明会については、中学生保護者の方の都合がつきやすいよう、来年度は別日に2回開催する。 体験入学は、体験授業の希望の取り方や受付方法を工夫して実施する。 HPをリニューアルする。有効活用を更に進め、内容の随時更新に心がけ、多くの情報発信に努めていきたい。 	教務
		2	学校ビジョンの検討	高校再編等も踏まえ、これからの地域の実情に基づいた、学校ビジョン、教育課程について検討することができたか。	<ul style="list-style-type: none"> 今後の少子化の動向や高校再編のスケジュール等を踏まえ、アンケートやビジョン検討委員会や将来構想検討研修会を開き、多くの職員からの意見を聞き、合意形成に向け議論を行う。 第1回大学入学共通テストを踏まえ、今後も大学入学共通テストについて情報収集や研究を進める。特に入試科目・内容の情報を収集して、入試に対応した教育課程の検討を行う。 あらゆる進路に対応した新しい教育課程の検討を行う。 	将来像の検討意見研集修約会	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度から普通科に理系、文系、学際3つのコースを設置し、理数科を2年次から文転可能なカリキュラムに変更した。これは長年検討してきた課題を少しでも解決させるものとなった。来年度実施に向け、教科横断授業の研修会やクラス編成のあり方についても検討することができた。 昨年度に引き続き、本校の現状を踏まえたカリキュラムの検討を行い、新学習指導要領に基づく新教育課程の編成を行った。この結果、少人数講座の展開や共通テスト、あらゆる進路に対応できるカリキュラムを組める下地が作られた。今後、大学入試の科目・内容の詳細が明らかになっていくので、情勢に合わせて臨機応変に対応していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 新しい仕組みが実施されるが、よりよいものを作り上げるように情報共有や議論を進めたい。 第2回大学入学共通テストの難化に伴い、入試に対応した教育課程の検討を早急に進める必要がある。 	教ビ課ヨ程ン委員会
1		学校評価	学校評価システムが機能し、課題が克服されたか。	<ul style="list-style-type: none"> PTA、HP等を通じて学校の重点目標や評価項目について説明を行う。 学校評議委員会、学校関係者評価などを通じて評価システムの改善を図る。 	学ケ保校(護)関ト者(ヘ)のアン	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、生徒、保護者、学校評議員対象の「匿名性を担保した学校評価」を実施することができた。どの項目においても高評価をいただいた。 学校評議員の方々から、様々なご意見、提言をお聞きすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や学校評議員の方々から頂いた評価について、改善すべき点等検討を加えフィードバックしていくことにより、本校の教育活動の向上へと繋げていきたい。また評価内容及び項目については、その改善・実現に向け全職員で検討していく。 	学委校員評価	